

小学校長会会長賞

堺市立 久世小学校 六年

原 実智瑠

つなぎ、広げる二つの輪

犯罪や非行は、毎日のようにおこっている。私たちが大人になつた未来で、犯罪や非行がない社会にするために今、私に何ができるのか考えてみた。

犯罪や非行をなくすためには、おたがいのことを思いやることが大切だと思う。

例えば、困っている人を助けることや、あいさつをするなどのコミュニケーションも思いやりになると思う。だれかと一言、言葉をかわすだけで心は自然と明るくなる。私も、地域の人と下校中、「おかえり。」「ただいま。」と一言かわすだけですごくうれしい気持ちになる。地域の人と話すことにきんちょうしてできなくとも、クラスの友達と、

「おはよう。」

とあいさつをかわすだけでもきつとうれしい気持ちになるだろう。

私も最初は地域の人と言葉をかわすことにきんちょうしてできなかつた。だから、クラスの子には自分からあいさつをするぞと決心し、となりの席の子や班の子と毎日「おはよう。」と一言かわし

ていた。私には、その一言かわすことがすごくうれしかつた。毎日そのことをくり返すうちに、クラスのだれにでも、「おはよう。」と言えるようになり、ろうかですれちがつた先生や、地域の人にも元気な声で「おはようございます。」と言えるようになつた。たつた一言、言葉をかわすだけで一日が明るく始まる。すごく簡単なことだけど、勇気がいる、すごく大切なことだと思う。

もう一つ大切な思いやりがある。それは、困っている人を助けることだ。知っている人や友達なら声をかけるけれど、知らない人ならきんちょうして声をかけられなくなつてしまふ。私も、困っている人がいると、きんちょうして声をかけられなつて何度もあつた。体が動く前に、頭の中で助けにいったほうがいいけど、本当は困つてないかもしれない。私の助けがじやまだと思われるかもしれない。と余計なことばかり考えて、結局声をかけることができなかつた。そのことを後になつて、あの時声をかけて助けにいついたら良かつたな、とこうかいすることのくり返しだつた。次は勇気を出して声をかけてみよう。そう思つていると、ある日、

学校で低学年の子が手に何かをもつて私の学年の五年生の階でキヨロキヨロと周りを見ていた。困っているな、助けよう。私は頭より先に体が動いた。

「だいじょうぶ。手に持つているもの、だれかに届けたいの。」

と、聞くと、三年生のクラスに行きたいことを教えてくれた。三年生のクラスは別の校舎にあつたから、私は三年生のクラスまで案内した。二人で自分の校舎にもどっている時、その子がすこしでれながら、

「お姉さん、ありがとう。」

と言つてくれた。私はすごくうれしくなつた。声をかけて、良かつた。これからも、困つている人がいたら、助けようと思えた。

相手のことを思いやると、相手も自分もうれしい気持ちになる。二人で「おはよう。」と言葉をかわすと、相手も他の人に「おはよう。」と言い、その人もまた他の人に言う。自分が困つている人に声をかけて助けてあげたら、助けてもらった人も、自分もいい気持ちになる。いい気持ちになると助けてもらった人は他の人を、助ける。そんな二つの輪をつなぎ、広げていくと、大きな輪になる。私たちの一つの言葉、一つの行動で、二つの大きな輪をみんなでつくる。私は、これからも思いやりの二つの輪を大切につなぎ、広げていく。その輪で思いやりがあふれる明るい社会の未来をつくっていくために。

